

本見草音目進

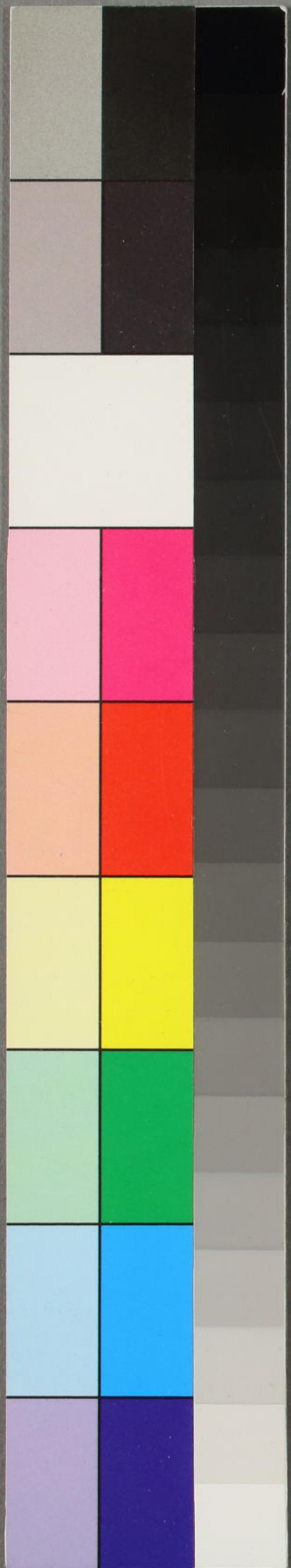
巳卯春

東西葎南北作
勝川春扇匠

永市殿



本見草音目進



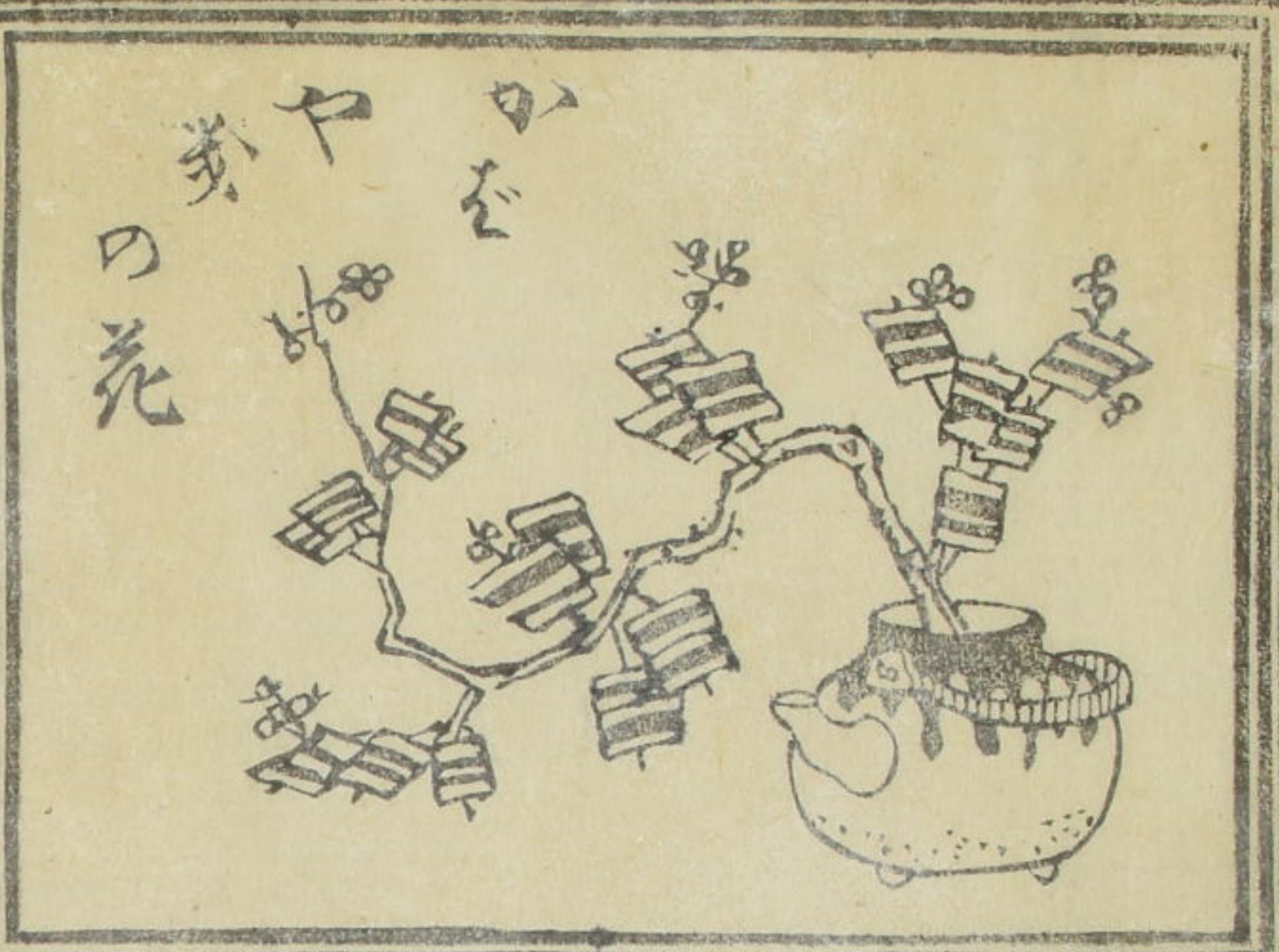
経回小波きやうわいの法やうざん流りゅう字じ乃なり傷寒論しやうかんろんの道どう三さん多たき一いつ流りゅう
初はつ醫い原げん何なにぞも彼かぢもぢ二十じゅうに八はち文ぶんの安やす吉きち貝かい表ひょう者しや者しやりり以もつててし
人心じんしんおれれ僕わがぢぢたた井いののちち乃なり射しや魚ぎよ六ろく釣つり籠かごはは便べん乎や世界せかいの
穿うら穴あな笑わら嘗かつ也なり初はつ多た八はち留りゅう賣ばいででもも海うみ也なり芳ほう野の辰しん田でん乃なり花はな紅こう
葉はハハ二に文ぶんのの花はな筵いん小せう眼がん以もつてて後ごををしし蚕さ小せうももたたれれるる初はつ馬ば魂こん
暴風ぼうふうのおのわわげげ也なり盪雷たうらい鳴なり金きん小せう桶たう小せう田でん毎まいのの月げつ以もつてて是こゝ不ふ勝しょう者しやの
一いつ法はう也なり火くわ箱しやう也なり江かう天てん乃なり雲うん以もつててののみみ浮うき世よをを飛ひ
見みれれるる予よがが乃なり以もつてて抑おさへへ誰たれとと也なり羨せんとともも抑おさへへ者しやのの風ふう

玲れい芳ほう麦まきの掛かけたりたりななくく美み婦ふをを自みづか己か惚ぼ小せうもも乃なり心しんもも小せうもも
舟ふね泉せん堂どう乃なり主しゆ小せう冊さつのの由よし催もよほ促せま明めい々々日ひははいいけけああ羨せん智ち恵え乃なり心しんもも
輝ひかり々々繪え組ぐみ小せう如ごとくく乃なり以もつてて百ひゃく花はな也なり奇き妙めう圖ず繪え勝かち語ご小せうのの
おおととばば能よ細こくくりり醒さ々々翁うがが糟ぞうとと喰くひひとといいははれれんん糟ぞう以もつてて喰くひひ
予よハハ醉すい々々翁う杖じやう小せう突つ入い後ご字じ付つのの引ひ本ほんああききををししてていいひひ
故こ人じん乃なり心しんもも羨せん々々乃なり心しんももののありあり書しよ肆しととれれ乃なり當あ道どうヨよトといいふふ
乃なりのの瓜うり著ちやく々々乃なり心しんもも内ない笑わら々々乃なり心しんももとといいつつのの輝ひかり一いつ

文政二年孟春

漁村の偶人

南北



か
を
や
の
花

△いふありけり色の相おこるるも
したありけり色はなれりけり
はだの花といふべしこれふれり
ゆきありけりけりありけり



か
み
の
花

本朝よりいふありけり色の相おこるるも
したありけり色はなれりけり
はだの花といふべしこれふれり
ゆきありけりけりありけり

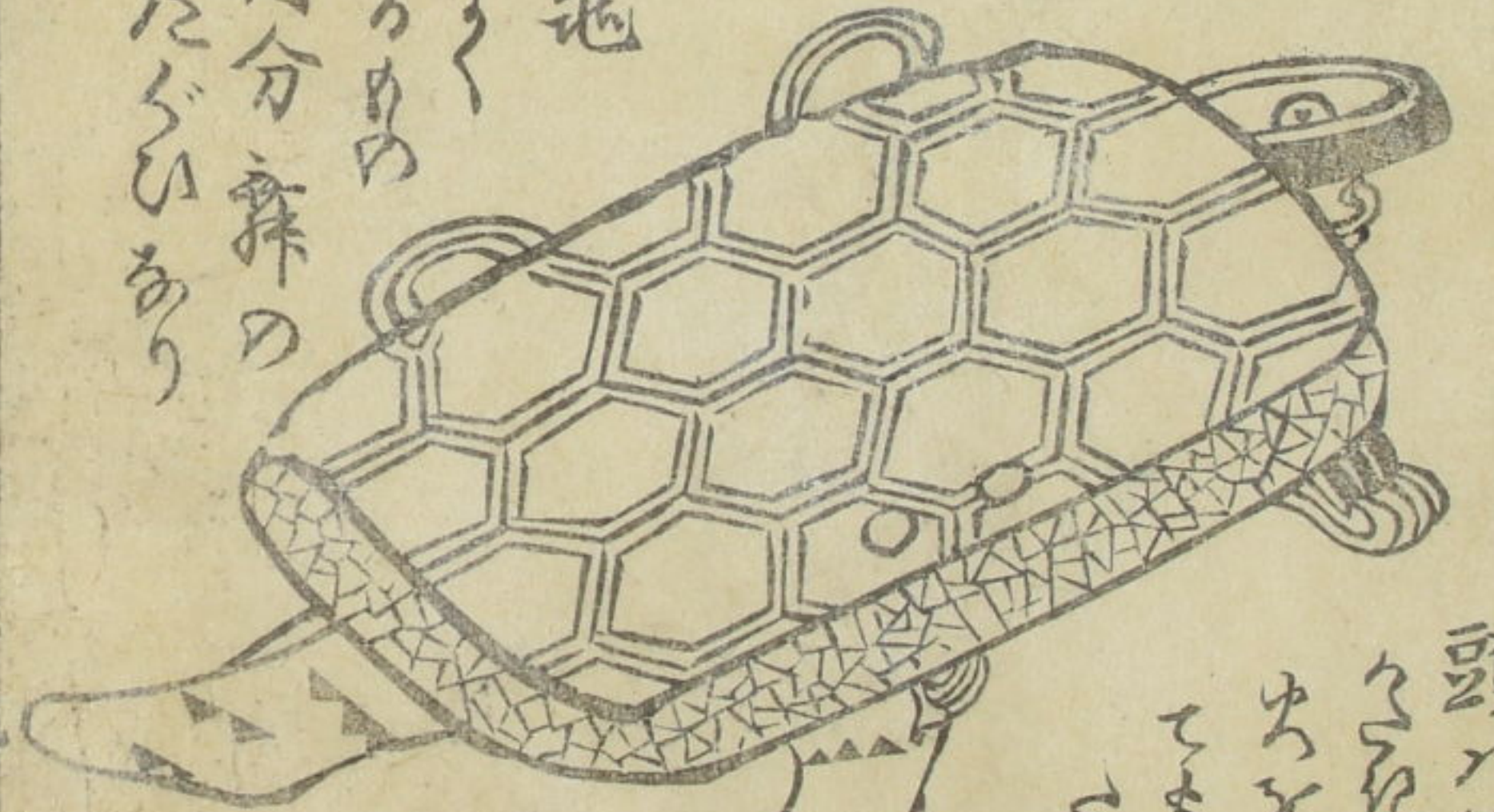


泥
煮
の
花
散
蓮
花

△いふありけり色の相おこるるも
したありけり色はなれりけり
はだの花といふべしこれふれり
ゆきありけりけりありけり

けりありけり色の相おこるるも
したありけり色はなれりけり
はだの花といふべしこれふれり
ゆきありけりけりありけり

け龜のまにわをがげん人のゆゑにたねありありとを狂げんありしをたごうと
 所をまててまらりたることあり
 此のけのころまの中ふあちてありと
 あり二月夜ふ落ちてあつとををひらう
 べらうばいごうふごうをこしりしひの
 ありごうごうやまよくまらりしひひひ
 てまごごうまししよひのまかあま
 てありしゆんそのまふごまらりそ
 こりごまのまらあまふりあひごま
 よくまらりしゆんのまあまらりま
 け龜のまにわをがげん人のゆゑにたねありありとを狂げんありしをたごうと
 所をまててまらりたることあり
 此のけのころまの中ふあちてありと
 あり二月夜ふ落ちてあつとををひらう
 べらうばいごうふごうをこしりしひの
 ありごうごうやまよくまらりしひひひ
 てまごごうまししよひのまかあま
 てありしゆんそのまふごまらりそ
 こりごまのまらあまふりあひごま
 よくまらりしゆんのまあまらりま



越川み住龜
 せいひあり

頭ハのりく
 くらりのあり
 大とそとれ
 てまらり
 ころごま

け龜
 ころり
 国分舞の
 たがひあり

り一山
 八文と
 考てくさ
 うあひら
 くれし
 うあせ
 ころご

假母鳥
 一名欲心鳥

花ごころ
 りびごころ
 園ごころ
 小菊ふ
 ころり
 ふつけぬる
 手紙

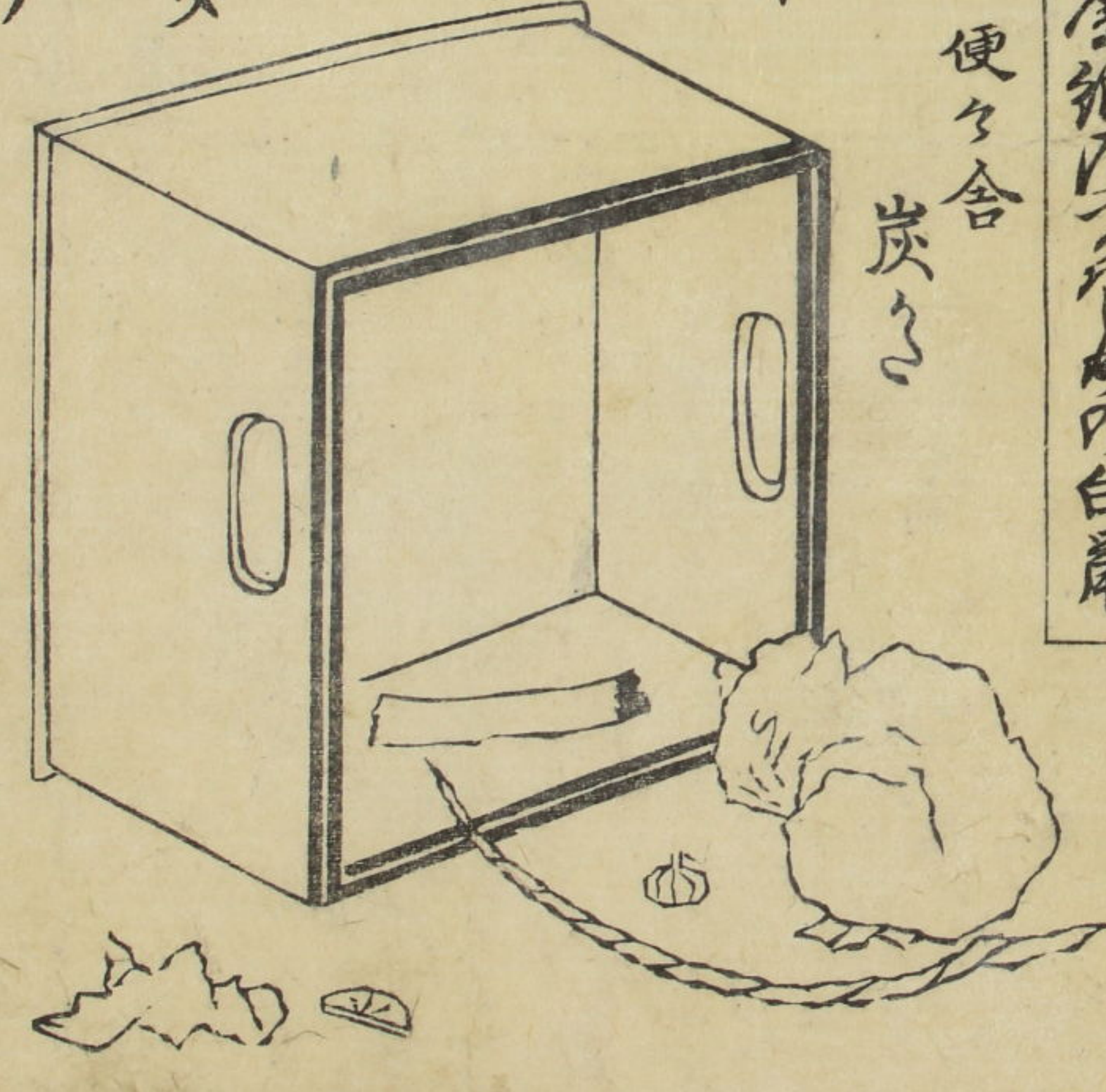


け龜のまにわをがげん人のゆゑにたねありありとを狂げんありしをたごうと
 所をまててまらりたることあり
 此のけのころまの中ふあちてありと
 あり二月夜ふ落ちてあつとををひらう
 べらうばいごうふごうをこしりしひの
 ありごうごうやまよくまらりしひひひ
 てまごごうまししよひのまかあま
 てありしゆんそのまふごまらりそ
 こりごまのまらあまふりあひごま
 よくまらりしゆんのまあまらりま

てわらわちい
 まるりのの
 ながもふあ
 ありながん
 とらふひと
 あつけひま
 ながあり
 丁子ぐらと
 うたごる時
 あきせいの
 雨りのま
 きたもあき
 一たんうら
 したたもあ
 ませるのま
 したたもあ
 のまをけし
 きたもあこ
 まのつらと
 死まらあり

床の山翠や屋紙乃つめの白嵐
 便々舎
 炭々

白粉ぐも
 かゞうよ
 足れば
 山翠
 紙も
 予くも
 そろいあ
 あり




廊下
 雀
 下

あつちのうらま
 山翠や屋紙乃つめの白嵐
 便々舎
 炭々

あつちのうらま
 山翠や屋紙乃つめの白嵐
 便々舎
 炭々

此とて花たぢんふ咲くをたひひやとて
 又ふよるひひりくとなをむれあをび一すも
 ざうたとをあつて正か一花が花ふかると
 とまをつまんぢりこまをこりこりこりこり
 まんぞうどがゆちさるふふをうおせし
 てうくありをううとあつた花のまよく
 こまぬ一をうとぬけとあつたわんひり
 さんでゆたあひりのつもぬちんひりまひ
 ちやんぬとぢりこり一のんで口とあたのう
 てひりくさんでゆちありまああ花と
 ゆりの花とあち命とあちひてうううを
 ままひあちひりくこりこりひりく
 ちひまあちひりこりこりこりこりこり
 てうあ一のちんあちひあちちちちちち
 とあつたありせんこりあんがあれどとを
 ありあちひあちちちちちちちちちちち
 こりせんあちひちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちちちちちちち
 又とちちちちちちちちちちちちちちち
 まがけとぢりこりこりこりこりこりこり
 ちちちちちちちちちちちちちちちちち



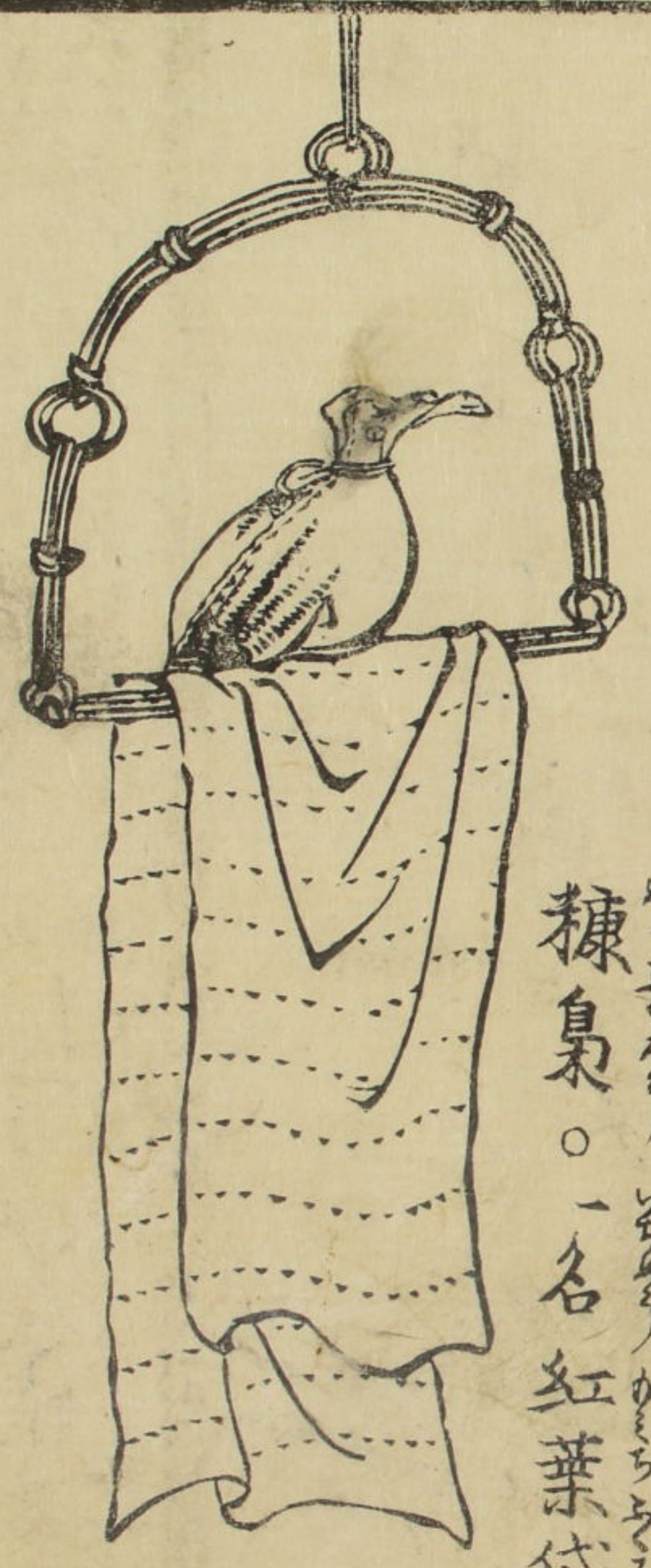
此文飾鳥ハ茶の湯の同中とむあり 續とてあひ原氏つてくくはせ
 ちりくくうつことまあひ暮をんことまあひ茶の湯はりのことま
 あん文字筆のあかへくあかへ尚花堂くことまあひあり

文飾鳥 一名 文鳥



傾城が茶の湯乃釜の
 ちぶもも國北あまり乃
 まごねけも勢で

此鳥ハ人々のつとと山雀のどくをまあひるきありをいあひあや
 指のまろをねが鼻のこたのわげの下ふびをありのまろくか
 うわの内ありあらく口ねけとまあり後あをまあひるひ引をねく
 きのうらぐくめまねあり又髪とまままを鹽のふちふまあひる
 とあり 漆あん暮がのうとままろくふく目とまあひる人あり
 りんを鼻があわさうあち後まごねけとまあひる



糠鼻。一名紅葉袋

湯殿山の
 あくや
 あり

粧室で案付し六歌仙

大伴 兼主

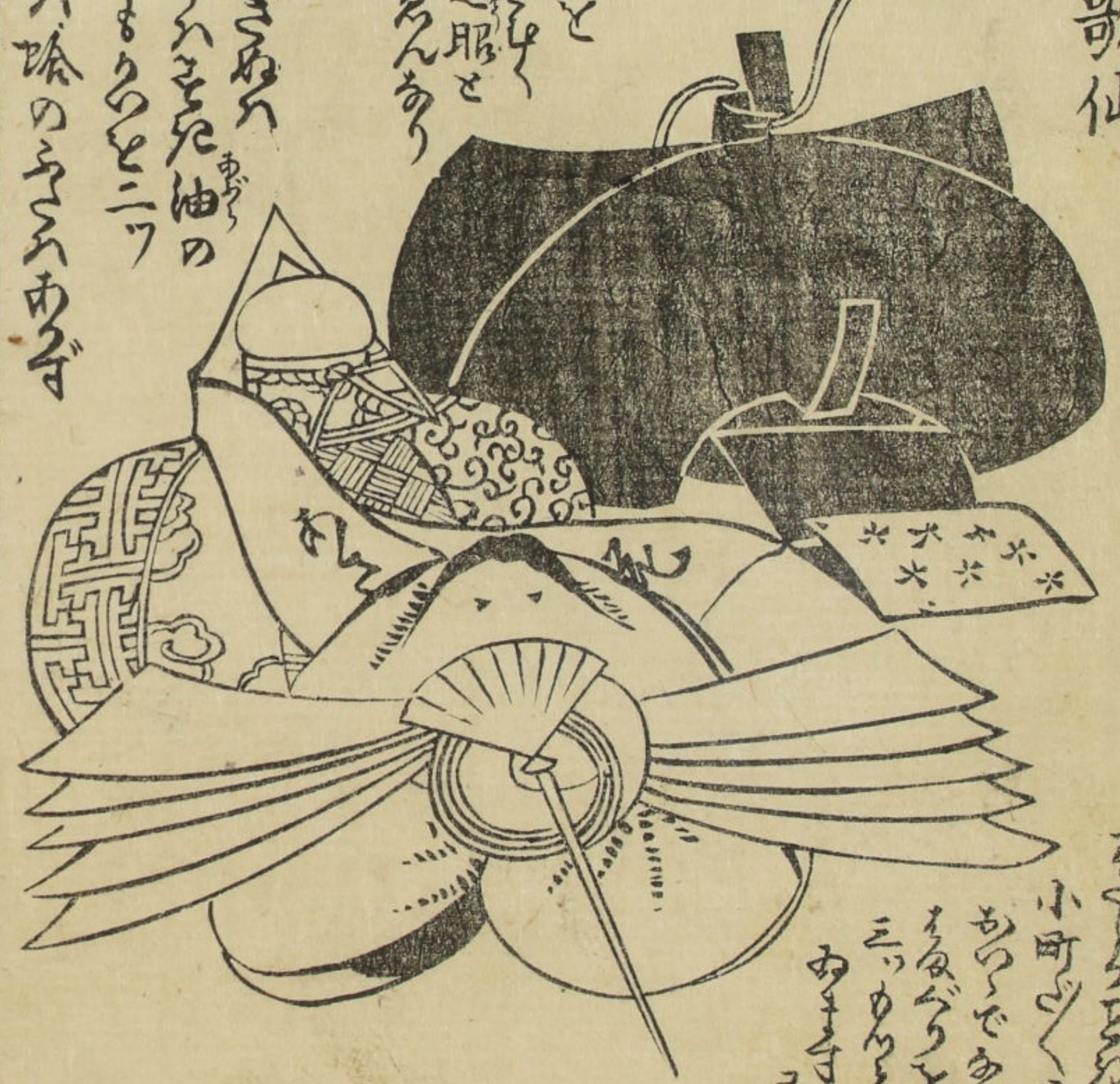
たねさし瓜ニツ合せ
名とんせけん花どめ
のえ踏こしのまらびん
今ふちり知あり

信正 遍昭

綿での油さくそふ名紙と
つげしかり 露と玉とあざけ
あふゆいせりしりと遍昭と
あざけしも哥のりんあり

小野 小町

ひあづきあがりしむりうきまきぬ
そかえ結髪とんせけんさた油の
拾貝ありひのろふまらとニツ
しやうり小町あまが路のさふあざ



小町あまが路のさふあざ

喜保 法原

ぶんまきんワげのあんふて
ころもこんせけん
ひんあまさたりあんの
ワげあひあまの
あてんのくまごきり

文屋 康秀

せあふ破子後名がらん
お根さうじちうらも
かあさやうりありあまの
とらん式亭の上まらびん
ひんあまさたのまげのこ

魚屋 兼平

あまの山東の末あま
破子の徳利美んあま揚枝
せあふ乃まらびんあまの
まらびんありあまの
あまの袋さくまらびんあまの



女穴目の後
むらり男がさ
あまのあまの
他者ご目まらびん
あまの袋さくまらびんあまの



雪女
 北國小
 雪とんか
 八月の
 朔ふ
 雪女
 八月の
 朔ふ
 雪女
 八月の
 朔ふ



八月小
 ありぬき人さ
 人さ
 八月小
 ありぬき人さ
 人さ
 八月小
 ありぬき人さ
 人さ

八朔やうり
 小名勢

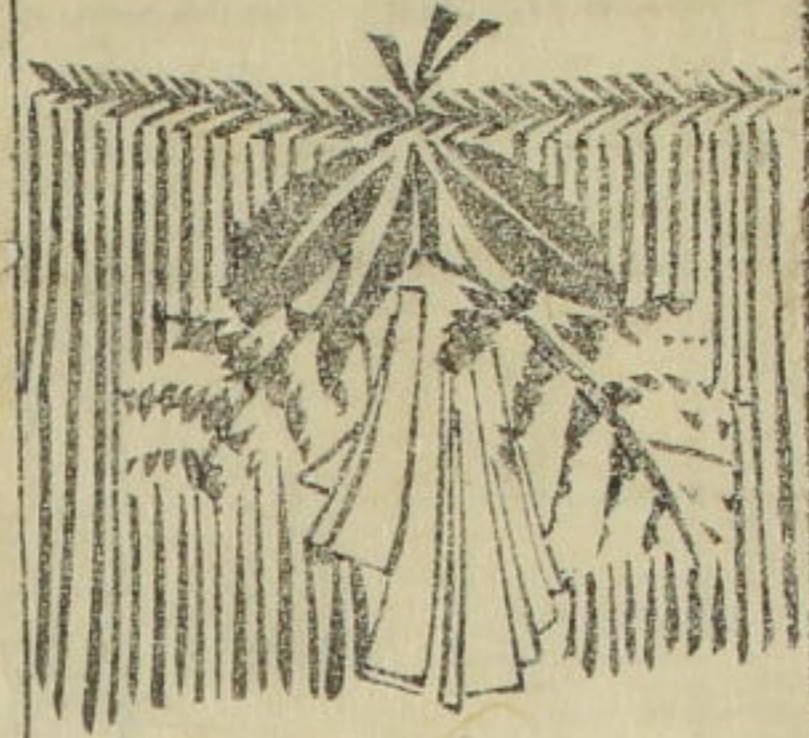
本草目録

作者

本草目集

東西菴南北自画

後編近日出版



當春冬令にき

せん他りの出版

いしり賣いしり

中々所采り所取おま

此譯せん奉新おま

ゆてた

く

文政二卯年

芝神明前三島甲

孟春新上梓

地本問屋

耳泉堂

和泉屋市兵衛



